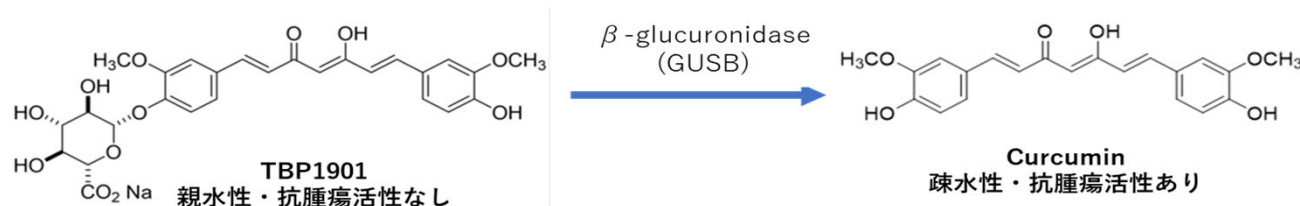


難治性がんに対するプロドラッグ型治療薬TBP1901 (クルクミンモノグルクロニド・ナトリウム塩) の開発研究

Company

株式会社セラバイオフーマ



1. TBP1901は標準治療不応の難治性がん（グリオブラストーマ（図1）、ボルテゾミブ耐性多発性骨髄腫（図2）、オキサリプラチン耐性大腸がんに対して抗腫瘍効果を示した。
2. Non-GLPの安全性試験でTBP1901は薬効用量と毒性発現用量の乖離が十分であることを確認した（図3）。
3. TBP1901の抗腫瘍メカニズムとして、NF-kB活性化阻害とROS発生促進の関与が示された。
4. 長期共存培養の結果、TBP1901の活性本体（クルクミン）は耐性が生じにくいことが示された（図4）。

図1) 膠芽腫orthotopicモデル

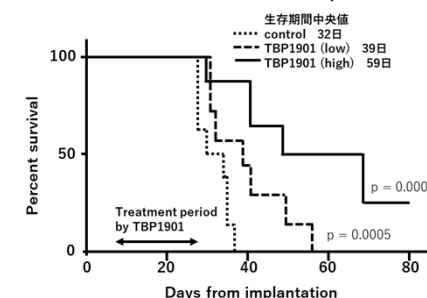


図2) ボルテゾミブ抵抗性多発性骨髄腫xenograftモデル

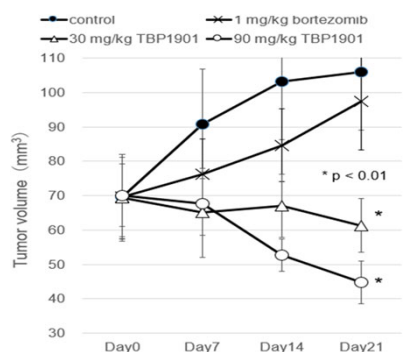


図3) 安全係数の比較

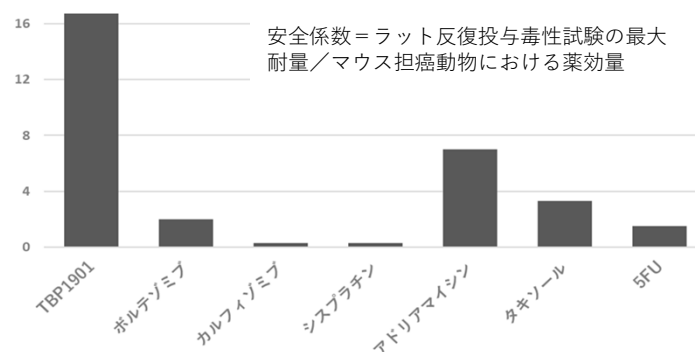


図4) 長期薬剤共存培養後のIC50比（耐性の出現）

